

### 1年1組（吉川理 級） 「きのみ☆すたぁ ～あんずさくせん～」

#### 【授業の様子】

校庭にあるあんずを使って作ったジュースとジャムを食べた。体験を通して、周囲の人たちへの感謝の気持ちや、学校の自然を大切に、生き生きとした思いを伝え合っていた。



#### 【講師の先生から】

- 「きれい。」と言っていた子どもが、「好きになった！」と発言していた。自分たちで作ったからこそその言葉である。
- 積み重ねがあるから、この授業が成立した。
- 生活科は総合とは目標が異なる。生活科の学習内容をより大切に。

### 1年2組（土田 級） 「にじいろおはな」

#### 【授業の様子】

自分が世話をしている花の様子を観察したり、気付いたことを伝え合ったりした。観察を細かく、丁寧に行ったり、友だちの花の成長を喜んだりしていた。



#### 【講師の先生から】

- 子どもが植物と向き合う姿がすばらしかった。
- 数量などの視覚や触感などで、細かい観察をしていた。「足の指みたい。」などの比喩表現も良かった。
- 教師は、子どもの気付きを整理し、子どもをよく見ることが大切。

### 2年1組（吉川知 級） 「おひさまなつやさい！」

#### 【授業の様子】

自分の野菜の観察や世話をしたり、気付いたことを伝え合ったりした。観察記録には、絵だけでなく様子を文字で書きこみ、野菜の様子を細かく観察していた。



#### 【講師の先生から】

- 数量化したり、付箋で丈の長さを測ったりしていた子どもがいたのが良かった。
- 導入の場面では、問題意識の共有化ができるが良い。
- 教師は、大げさに驚いたり感心したりして、子どもに共感することが大切。

### 2年2組（片岡 級） 「HERO なつやさい！」

#### 【授業の様子】

自分の野菜の観察や世話をしたり、気付いたことを伝え合ったりした。友だちの野菜の話にも耳を傾け、発言後には相槌をうち、ひびきあっている様子があった。



#### 【講師の先生から】

- ①野菜が良く育っている、②1時間の構成の積み重ね、③共感的な聞き方、④教師の出、が良い授業につながった。
- 画像で共有するべきだと判断したら、ICTは活用する。
- もっと、子ども同士が説明して解決できる場面があった。

### 3年1組（山本麻 級） 「 とべのまちの笑顔を伝えよう！！ 」

#### 【授業の様子】

戸部のまちで調べた、まちの人のいいところについて伝え合った。2年生の時や生活の中での経験を踏まえて、「やさしい」「すごい！」という見方で、いいところを共有していた。

#### 【講師の先生から】

- 子どもの言葉に、「それって、どういうこと？」という教師の出が、とても効果的だった。
- 次、子どもをどう向かせたいのか、疑問や視点をもって活動していくことが大切。そのためには、これからどうするのかを明確にもつことが必要。



### 3年2組（飯田 級） 「 3-2スマハピ人形劇 」

#### 【授業の様子】

動画を見て得た情報をもとに、楽しい人形劇とはどのようなものかについて話し合った。一人ひとりが、人形劇について伝えたいという気持ちがあふれていた。

#### 【講師の先生から】

- 教師がすべて答えるのではなく、うまく相槌をうちながら子どもに語らせてあげることが大切。
- 本時課題が、子どもの現在の思考と合っていないと感じたら、変えてしまうことも大事。
- 子どもの「おもしろい！」を大切にする。



### 4年1組（稲葉 級） 「 かもん山ゲームでみんなスマイル 」

#### 【授業の様子】

調べてきた掃部山公園のおすすめポイントについて共有した。好きになってもらえそうなポイントについて、掃部山公園に対する思いを交えて、話し合っていた。

#### 【講師の先生から】

- 「もっと知りたい！」という思いを引き出すには、今までと別の視点を出すのが効果的。
- 授業者ももっと子どもに任せ、いちいち入らないようにすることが大事。
- 構造的な板書ができると良い。



### 4年2組（武藤 級） 「 わらべうたでみんなスマイル 」

#### 【授業の様子】

わらべうたを体験し、その楽しさについて話し合い、疑問に思ったことを共有した。わらべうたの楽しさを拡散的に出し合い、その魅力について熱をもって話し合っていた。

#### 【講師の先生から】

- 実際にやっていた場面が素晴らしく、材にひたっている様子が見られた。
- 「子どもベースの授業づくり」とは、「どのように深く学ぶか」「一人ひとりがどう変わるか」が大切。
- 子どもの発言一つ一つが深く、それぞれの視点の違いがあった。



## 5年1組（花村 級） 「戸部まちアプリ」

### 【授業の様子】

2つの既成のアプリを見比べ、それぞれのアプリの伝える対象や内容から分析した工夫を共有し、自分たちの目指すアプリについて話し合った。「まちの人のために」という思いを強くもち、真剣に考えて話し合っていた。

### 【講師の先生から】

- よく分からないことは、分からないということを自覚させていき、課題も問題も醸成させていくことが大切。
- 話し合いでも、活動でも、「大多数がそうか」を見取り、少数なら、考えをもてる時間をつくる。



## 5年2組（川合 級） 「戸部のまちに絵手紙を届けよう」

### 【授業の様子】

2つの絵手紙を見て考えた、絵手紙らしさについて話し合い、その成果をもとに、実際に絵手紙をかいた。どのように表現したら、より絵手紙らしくなるか考えながら、熱中して絵手紙をかいていた。

### 【講師の先生から】

- どンドン問い返して、意見を深め、その言葉がどういうことなのか押さえてから活動に入ると良い。
- 視点をもって比べる等、思考させる板書をするすることで、そのものの概念ができてくる。



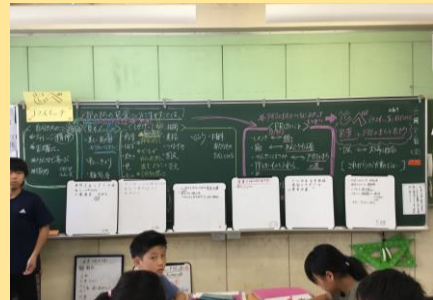
## 6年1組（遠藤 級） 「とべゴラスイッチ」

### 【授業の様子】

装置づくりにチャレンジし、戸部のまちを表すためのしかけやしぐみに生かすことについて話し合った。戸部のまちを表すことのできる具体的なしかけやしぐみを出し合い、今後の活動について考えていた。

### 【講師の先生から】

- 教師は、ファシリテーションの役。「発話」や「合意形成」を行い、子どもベースで授業を進めることができています。
- 授業の「しかけ」とは、教師の向かせたい方向にするためではなく、子どもの学びを深めるのが前提。



## 6年2組（小塚 級） 「とべコマ6-2」

### 【授業の様子】

2種類のストップモーションアニメを視聴し、コマドリならではの特徴や面白さを出し合った。身近なものだったら、具体的にどんな戸部小の作品ができそうか、今後の活動について語り合っていた。

### 【講師の先生から】

- 本当にコマドリならではの特徴か考えるために、「これって、動画でもいいんじゃない？」と投げかけても良かった。
- 表現系はあくまでも手法にすぎない面もあるが、手法としての良さを思い切り味わわせてのめりこませたい。



## 4組（大西・山本研 級） 「いろいろチャレンジ隊」

### 【授業の様子】

玉ねぎの染液を使い、ミョウバン媒染で染めた染物を見比べて、気付いたことを共有した。色の変化について、カードを使って比較したり、身の回りのものと結び付けて考えたりしていた。

### 【講師の先生から】

- それぞれの子の目指す姿が異なることを教師が意識した上で、めあてや支援を考えていくことが大切。
- 五感を働かせて色を表現できるように、表現力を豊かにする活動を取り入れることで、染めの活動も豊かになる。



## 5・6組（渡辺・松阪 級） 「すごいね かいこ」

### 【授業の様子】

チームでカイコの世話をしながら、様子を観察したり、観察カードに書き、気付いたこと共有したりした。お互いに声をかけあいながら、チームの意識をもって活動に取り組んでいた。

### 【講師の先生から】

- 子どもの観察している様子を見守ることが大切。教師が出る場面は、あくまで子どもが「必要！」と感じた時。
- 子どもたちが「命」をどのように受け止めていくか、とにかく丁寧に扱っていくことが重要。

